

# 資料4

## スマートシティ伊勢推進構想1.0

### 骨子案(R050718版)

人と人がデジタルでつながる  
～People Connected by Digital～



令和 年 月

## I 策定の背景・趣旨

- (1) 伊勢市を取り巻く状況と抱える課題
- (2) 策定の趣旨
- (3) 伊勢市がこれまでに取り組んできたこと

## II 構想の位置付け

## III 他の計画との関係と構想の期間

## IV 基本理念、基本原則

- (1) 基本的な考え方 ～スマートシティ伊勢で実現していく姿～
- (2) スマートシティ伊勢を実現する上での3つの基本理念
- (3) スマートシティ伊勢の運営5原則

## V 取組の方向性

主に委員会で議論していただきたい部分

## VI 既に実施している取組

## VII 推進体制

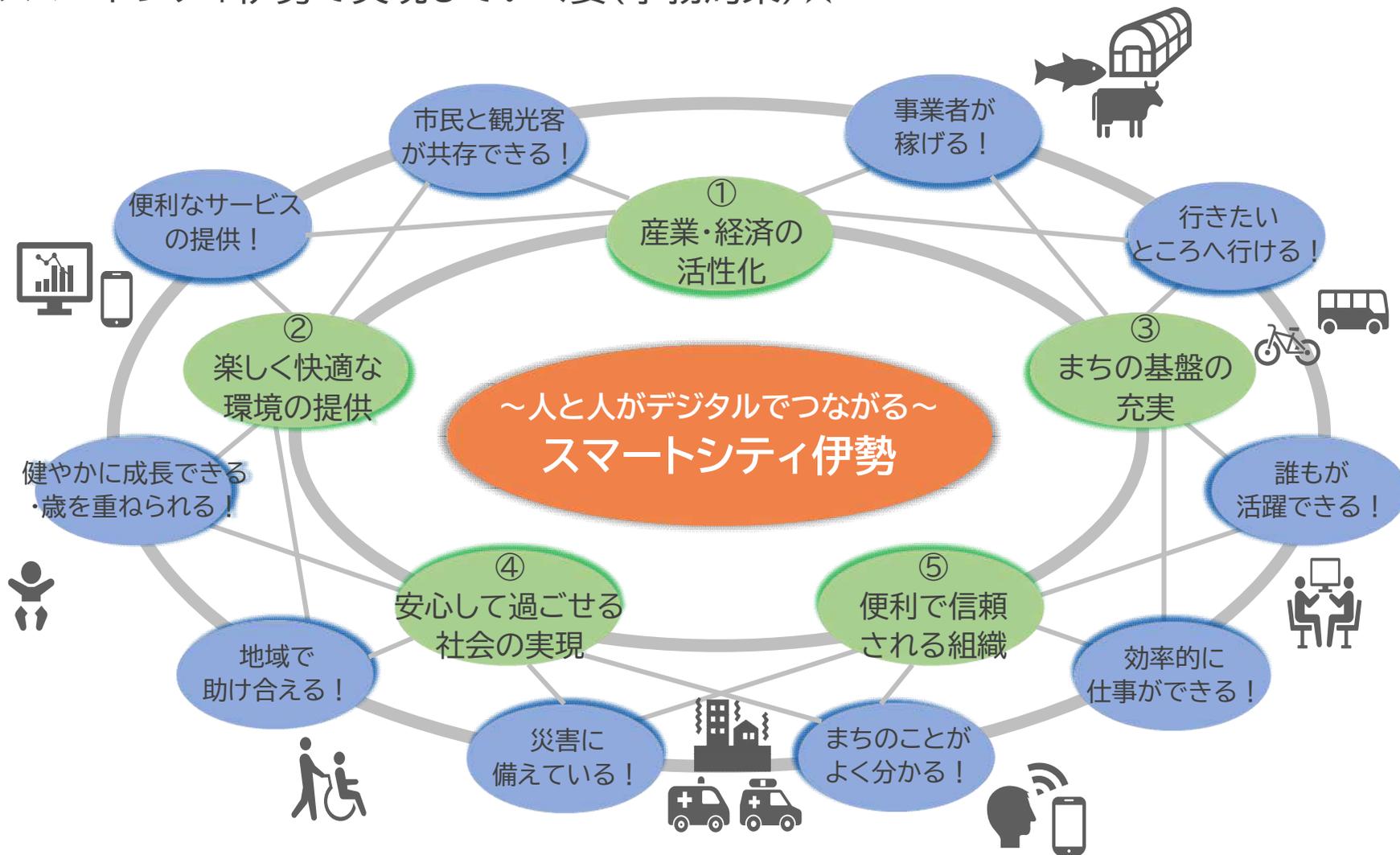
## VIII 今後の進め方・ロードマップ

## 参考Ⅰ 策定経過

## 参考Ⅱ 伊勢市がこれまでに取り組んできた主な取組の紹介

## 参考Ⅲ 用語解説

(1)スマートシティ伊勢で実現していく姿(事務局案)★



スマートシティ基盤の整備  
(データ連携基盤の導入・推進体制の充実、規約・ルール作り)

(2) 目指す姿【記載例】★

産業・経済の 活性化	誰もが行きたいところへ行って買い物ができ、 地元事業者も潤う市民と観光客が共存できるまち
---------------	---

課題	方向性	取組例	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 社員教育</li> <li>○ 人手不足・人材確保</li> <li>○ 後継者不足</li> <li>○ 業務・組織運営効率化</li> <li>○ デジタル化への抵抗</li> <li>○ 交通網充実</li> <li>○ 輸送・運送手段の確保</li> <li>○ 賃金上昇</li> <li>○ 自社の強みや弱みの理解</li> <li>○ 顧客消費行動、ニーズ、傾向の把握</li> <li>○ ブランド化(知名度アップ)</li> <li>○ 情報発信力の強化</li> <li>○ 販路拡大</li> <li>○ 販売単価向上</li> <li>○ 夜の賑わい創出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 若者が1次産業に従事したくなる環境の整備</li> <li>○ 地域で生産された農水産物が地元の飲食店で利用され、そのことが消費者に伝わる仕組み作り</li> <li>○ 一般消費者が手軽に手に入れられる機会の創出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自動化ツール導入などによる1次産業の効率化(スマート農業等)</li> <li>○ 若者が目にする飲食店等の SNSでの情報発信</li> <li>○ 農水産物直販所などでのリモートシステムを活用した販売・在庫管理</li> </ul>	

(3) その他の目指す姿とそれぞれの課題★

産業・経済の 活性化	誰もが行きたいところへ行って買い物ができ、 地元事業者も潤う市民と観光客が共存できるまち
楽しく快適な 環境の提供	子供から老人まで誰もが生活しやすく、 地域で助け合いながら、伊勢を訪れる人とも楽しく交流できるまち
まちの基盤の充実	時間や場所を選ばず、どのような家庭環境でも働くことができる、 ワークスタイル・ライフステージに応じた生活ができるまち
安心して過ごせる 社会の実現	みんなが街のことをよく知り、安心して幸せに過ごすことができ、 災害の際にも地域で助け合えるまち
便利で信頼される 組織	利用者目線で運営がされ、効率的で働きやすく、 適切な情報を提供している、まちの見本になれる組織

課題

- 社員教育
- 人手不足・人材確保
- 後継者不足
- 業務・組織運営効率化
- デジタル化への抵抗
- 交通網充実
- 輸送・運送手段の確保
- 賃金上昇
- 自社の強みや弱みの理解
- 情報発信力の強化
- 地域のつながりの希薄化
- 時代に合った活動内容・形態への変換
- 働く場所の確保
- 認知症や要介護者、高齢者の単身世帯の増加
- 社会保障費の増大
- 健康で自立的な生活の保持
- 地域における協力体制の構築
- 学び直し(リスキリング)
- 業界内での情報共有
- 従業員向けの相談窓口設置
- 市民一人ひとりの防災意識向上
- 誰もが暮らしやすい社会を形成するための、意識・行動・仕組みの変革
- 地域の情報を知る方法の充実

ほか

## (1) 推進体制

